

2016年（第15次）樹勢調査結果 速報

2016年8月 名勝小金井桜の会 事務局

初めに

今年も、平成14年(2002年)に第1回目の調査を実施して以来15回目になる、名勝小金井桜の毎木樹勢調査を実施しました。今回も予算の関係から、ここ数年ご協力をいただいていた東京樹木医プロジェクト(PJ)の先生方の参加は得ずに桜の会会員のみで、昨年と同様の調査方法で盛夏の7～8月にかけて、ブロック毎に実施しました。

詳細な調査データは近日中に会のホームページに掲載されますが、ここに概要を速報版として纏めましたので報告いたします。

今年は2月に関野橋下流に桜の会が育てたヤマザクラ苗木10本が植樹され、元気に育っている様子が確認されましたが、一方で新たに10本の枯死木が確認され、昨年の8本、一昨年の15本と、依然として桜並木全体の衰退は継続している状況です。

なお昨年もお知らせしましたように、調査の詳細な報告書については数年おき(3～5年毎)の間隔で発行することを基本方針としますので、本年はこの”速報”をもって調査報告といたします。

【1】調査日と調査メンバー

(アンダーラインはブロックリーダー)

第1ブロック： 7月27日	<u>石田精一</u> 、石田いく子、三宅 章
第2ブロック： 7月24日、26日	<u>小迫悦子</u> 、池 和子、小迫邦彦、竹前直子
第3ブロック： 7月18日	<u>植竹隆夫</u> 、岩間博昭、村山秀貴
第4ブロック： 7月20日	<u>小沼廣和</u> 、日並洋一
第5ブロック： 7月11日	<u>日野絵里子</u> 、杉山利男、田嶋清二、渡辺ふき子、
	合計 16名

【2】調査方法： 昨年と同じ(東京樹木医PJ指定の調査票に基づき評点付して評価)

【3】調査風景とトピックス写真：



調査風景；第1ブロック



調査風景；第2ブロック



調査風景；第3ブロック

【4】調査結果の概要；

ブロック	2016年 総合評価ランク					計	2015年 総合評価ランク					計	本年枯死 (不明)	備考
	1	2	3	4	1		2	3	4					
	←状況が良い:状況が悪い⇒						←状況が良い:状況が悪い⇒							
1	0	0	100	12	112	0	1	101	10	112				
2	16	56	72	2	146	16	47	83	3	149	#190、#885、#892 が枯死			
3	10	24	82	10	126	7	26	86	9	128	#769、#792 が枯死			
4	132	34	30	8	204	87	44	66	13	210	N30、#382、S35、 #695、#746 が枯死 #394、#354 が萌芽 更新中	H24年植樹の4本 が枯死し植替え 更新中		
5	79	13	14	9	115	18	0	82	5	105		新たに10本を植 樹		
合計	237	127	298	41	703	128	119	417	40	704	2016年は枯死10 本(+2本 萌芽更新 中)	2015年は 枯死8本だった		
比率%	33.7	18.1	42.4	5.8	100	18.2	16.9	59.2	5.7	100				

詳細データは名勝小金井桜の会ホームページを参照ください。 URL : <http://koganeizakura.com>

【5】調査参加者の感想・コメント

＊第1ブロック・ブロックリーダー 石田精一

第1ブロック全体は昨年に比べてほぼ同様の状況であるような印象を受けた。2013年度第12次樹勢調査報告書によれば、第1ブロックは総合評価ランク3（生育状態不良）の本数割合が96%を占めており5ブロック中最悪である。一方第4ブロックは評価ランク3が22%しかなく、5ブロック中最も低い割合だが、これは第4ブロックがモデル整備区間にあたるため、ケヤキなどの高木雑木が伐採されて、明らかに日照条件が格段に改善されたからである。

第1ブロックの玉川上水内のケヤキ群は、樹高が20メートルを超えるものが多く、まるでジャングルのように我が物顔にはびこっている。特に北側（左岸）の小金井桜の日照を大きく奪い、大きな枝が覆いかぶさるようにそれぞれの桜を圧倒している様子は見るも無残である。生育状態不良の数値が最悪な理由は明らかである。ケヤキ群の大木が水路の両岸の斜面を崩壊させつつある状況も放置されたままだ。

今年もコスカシバは多くの樹に見られ、キノコ類も散見された。調査をしていると近所の人や散歩途中の人々が話しかけてくれ、言葉を交わす機会があった。お菓子をくれた人もあった。朝から曇り空で天気

にも恵まれた。（三宅 記）

< 補足 >

全体の状況については三宅氏の報告の通りであるが、以下調査項目別に昨年との対比を試みたのでその結果を報告する。

- ① 生育環境：日照不足、土壌固結、根系伸長制限のいずれも昨年同様で改善が見られない
- ② 樹木の生育状況：大枝・幹の枯れ・腐朽は改善された。最近の枯れ枝剪定などの手入れの効果と思われる。
- ③ 病害虫：コスカシバが食入した樹数が急激に増加した。27%→65% 約2.5倍となった。
- ④ キノコ類：サルノコシカケがわずかに増加した。
- ⑤ 総合評価：コスカシバで点数が増加したが一方大枝の処理などによる改善もあり、ランクが悪化した樹数は ランク2→ランク3 1樹、ランク3→ランク4 2樹にとどまった。

総合して

- 1) 腐朽した大枝・幹の処理は今後も積極的に実施してほしい。
- 2) 急増しているコスカシバ対策を検討する必要がある。
- 3) ケヤキなどの伐採、剪定による環境改善を急いでほしい。（石田 付記）

*第2ブロック・リーダー 小迫悦子

150本の毎木調査は毎年大変な時間がかかり、班の皆さんはじめ樹木医の先生方、反省会を待って下さる他の班の方々にいつも多大なご迷惑をおかけするので、今年は樹勢調査を2日間に分けて行った。又、土壌の固結や根系伸張の制限等は、今回は樹木医抜きの調査なので、前々回の樹木医の先生の値をそのまま使わせて頂いた。

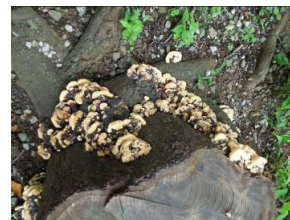
今年は桜樹の剪定が進み、昨年大枝の枯れが目立っていた木はほとんどが剪定されていたので評価が高くなったものが目立った。だからと言って、桜の樹勢が良くなったとは言いが残念だ。コフキサルノコシカケも削り落とされたのか、外目には見えなくなったものがあった。しかし、外目に見えなくなっても樹には菌が残っているので観察を続けたい。

★ 剪定のおかげで、大枝の枯れが目立たなくなったものの、幹の痛みが進み痛々しい桜樹が目立つ。

例；#269

★ キノコ類も目立った。 例；#869：コフキサルノコシカケ

；#885：ベッコウタケ



★ コケ類で覆われた桜樹も多かった。

例；#241

★ ヒコバエが剪定されたところと伸びたままの処とバラバラだった。出来るだけ早めの剪定をお願いしたい。右岸の若木たちの処はヒコバエも胴葺き枝も剪定済みで感謝。（小迫 記）

*第3ブロック・リーダー 植竹隆夫

調査は昨年のデータをベースに参加者全員の意見を総合して評価しました。調査結果としては、昨年樹

勢衰退が顕著だった5本中の2本の枯死が確認され、新たに別の1本が枯死寸前となりました。また樹勢衰退顕著のものが5本となり、衰退は依然として進行し続けている状況です。

今年特に印象深かった点として、陣屋橋付近に平成15年に植樹された若木の成長不良（特に北側）を挙げておきます。10年以上も経つのに幹は細いままで成長不良が著しく、夏草やツルにまみれて痛々しい。他方、近くの平成26年に植樹された苗木は幹も太くなって元気に成長している。なぜこの差が生じたのか考えてみると、ここ数年植樹場所の環境整備や植樹後の管理を訴え続けている中で植樹された苗木が比較的元気なことを見ると、植樹時及び植樹後暫くの期間の管理が極めて重要であることが窺えます。（植竹 記）



枯死：#792



切株から復活：
#304

昨年、目立った「葉の食害」「キノコの被害」が少なめであったものの、新たに枯死認定の樹木、梢や大枝の枯れが進行してしまった樹木も相当数あり、全体的にやや衰退傾向であるという印象であった。

一方で新しく植樹した樹木は比較的元気に成長していた。特に植樹当初に周囲の雑草等を伐採してものは幹回りも太く今後は楽しみである。最初の手入れ、日常管理が重要であると痛感した。（村山 記）

*第4ブロック・リーダー 小沼廣和

この新小金井橋から関野橋間は、小金井桜復活のモデル地区であり名勝小金井桜のヤマザクラ並木を郷土の遺産として次代に引き継ぐための「あるべき姿」を内外にお見せするモデルとして管理者である東京都及び小金井市が中心となって日常の生育維持管理を行っているはずのものである。しかしながら、毎年の樹勢調査のたびに指摘し、改善要請をしているにもかかわらず桜の成長を阻害する下草の伐採は連携がとられずバラバラの管理がされ、植栽した幼桜根本の雑草の伐採は6月中旬に根元1m四方がきれいに伐採されたと思ったら野カンゾウの花が真っ盛りになり散策する人を楽しませている最中の7月初旬に北側五日市街道沿いの堤みの下草を野カンゾウの群生もとも写真のように綺麗に伐採された。



しかしながら、南側堤は調査時7月20日には夏草が桜の苗木に覆いかぶさり、北側と南側のアンバランスな状況が露呈されていた。野カンゾウの花が咲き終わった8月初旬になって南側は写真のように綺麗に下草を伐採されたが、今後下草の伐採は7月20日から31日の間にすべき。



モデル地区の平成23年から3年間かけて植栽された小金井桜幼木の生育状態は、日常管理がなされず添木への補助縄が更新されず苗木の成長を阻害し無残な状態が見られ、成長に合わせた日常管理を身近にいる地域住民による維持管理の必要性を表す事例であり、小金井桜復活への「モデルケース」の悪例として、広く内外にアピールする必要性を感じた。小金井桜復活は、行政との協働事業として進めていくはずであった。

また、平成23年に植栽し4年たっているN18番は他の同年に植栽した桜との成長具合が著しく悪く、成長に合わせた施肥等の日常管理がされず栄養失調で瀕死の状況で

あることの事例として、植え替えを早急にすることを指摘したい。

植栽した小金井桜幼木の成長状況については、どういう事情か解らないがN14番幼



木の幹のひび割れが見られ、その原因について当会との協力関係にあるNPO法人東京樹木医プロジェクトのメンバーに調査を依頼しその原因説明を早急を実施する必要がある。S35番及び695番の小金井桜2本は、昨年見事の花を咲かせ、春には新芽が出て元気に成長していると思っていたが、この夏場に来て葉が2本とも茶色に変色し枯れる寸前の状態であった。何らかの土壌不良による原因が考えられるが早急に調査が必要である。



最後に、モデル地区に植栽した桜のうちヤマザクラ以外の桜の幼木がN17、N20、N26、S27の4本を今年の植栽時に植え替えを行うとともに、他の枯死及び成長不良であるN18、N30、S35、フェンス内側に植栽され、すでに枯死状態にある小金井桜の古木である756・740・722・720・714・695・692の合計14本を今年度のモデル地区に補植する必要がある。

関野橋から梶野橋間にかけて、野カンゾウが群生し、今も盛りと散策者の目を楽しませている最中の7月6日、無残に根こそぎ伐採されてしまった事件を記して今回の樹勢調査雑感を締めくくりたい。（小沼 記）



*第5ブロック・リーダー 日野絵里子

全ブロック共通の調査方法に加えて、現況から今後枯死するなど、衰退の予測についても調査した。

*調査方法；樹木全体を眺めて

- ① 樹形、葉の量、大きさ、勢いがあるか。
- ② 枯れ枝はないか、幹、枝に活力があるか。（成長の跡が見られるか）
- ③ 幹の内部まで腐食し、蟻など昆虫が寄生していないか。また、キノコが発生していないか。
- ④ 幹、枝を木槌で叩き空洞がないか。表皮は異常がないが内部は空洞化していないか。
- ⑤ 造園業者による剪定後の養生はきちんとされているか。
- ⑥ 樹形は美しいか。（結構大事ならしいです）

等を観測して今後の桜木はどうなるかを、下記のランクに評価した。

- ランク 1 現状維持
2 対策を講ずる予兆あり
3 対策を講じないと枯死に至る
4 回復の見込みなし（枯死を待つ）

*調査結果；調査本数 87本

ランク 4=9本、 ランク 3=13本 計=22本（25.3%）

<感想>

生き物は複雑であり、あらゆる面から観察しないと、一面だけでは判断出来ないことが分かりました。農家の方々が、早朝畑や田圃に行き作物の育成状況を、病虫の被害、水温の状況等を見て回っていますが、この事は桜にとっても言える事であり、私達はこれからは、観測する眼を養う必要があると思います。（田嶋 記）

以上